



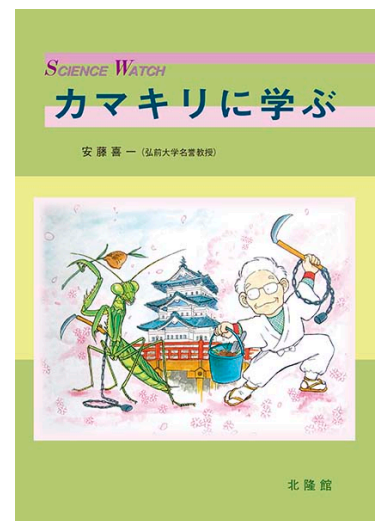
令和3年 9月 2日  
国立大学法人弘前大学

報道関係各位

安藤喜一名誉教授の「カマキリに学ぶ」出版について

【本件のポイント】

- ・本学名誉教授の安藤喜一博士が「カマキリに学ぶ（北隆館）」を2021年8月20日に出版した。
- ・本著はカマキリの生態を明らかにする中で、一般によく知られた「カマキリの雪予想」について科学的な観点から間違いを指摘している。
- ・多くの写真を示し、安藤名誉教授の研学生活についても織り交ぜながら話が展開するため、一般の人に分かりやすい。



【本件の概要】

背景と経緯

安藤名誉教授は本学を定年退職後にカマキリの研究に着手した。カマキリは飼育が難しく研究者が大変少ないが、17年にわたり研究を続けている安藤名誉教授はまさしくカマキリ先生と言って過言ではないだろう。安藤名誉教授がカマキリ研究を始めて一年近く経った頃、世間で話題になっていた「カマキリの雪予想」について詳しく知ることになった。「カマキリの雪予想」とはカマキリがその年の積雪量を予想して、冬季に雪に埋もれない高さに産卵するというものである。カマキリの卵の位置を調べることで、ヒトも積雪量が推測できるため注目を集めていた。一目で間違いだと気がついた氏は、科学的にお墨付きが与えられ、世間でもマスメディアを通して浸透していた本説について検証を重ねた。実証的な実験や野外調査を通じて得られた結果は、“カマキリの雪予想はありえない”というものであった。



### 書籍の内容

安藤名誉教授の野外調査によると、カマキリの卵が積雪よりも高い場所に位置するという傾向はない。それは、カマキリが産卵する草丈や樹高と相関していた。そもそも雪の下に埋もれても、全く問題なく孵化することも実証された。また、幼少期の豪雪地帯での生い立ちやスギに対する深い造詣により、本説の問題点について鋭く指摘している。加えて、なぜそのような間違いが生じたのか、さらに研究社会や一般社会でなぜ受け入れられたのかを、様々な観点から考察している。雪予想を否定することにより生じた思いがけない苦労や、昆虫の生態学者の日常について垣間見ることができ、研究の世界を知る良いきっかけになると思われる。



本著口絵掲載写真

### 今後の予定・期待

安藤名誉教授による「カマキリの雪予想」に関する反証については、約15年に渡り昆虫学の世界では報告されているものの、一般には多くの人が雪予想を信じている。これはかつて学术界が「カマキリの雪予想」にお墨付きを与えたことも無関係ではなく、その責任の一端があると思われる。テレビやラジオでも真実として時折言及されるため、本著の出版をもってマスメディアの認識も改まることが期待される。

今回の書籍の題材となった、安藤名誉教授のカマキリ研究は、大学の定年退職後に主に自宅で取り組んだものである。在学中はさまざまな昆虫を研究対象としていたが、とりわけコバネイナゴの研究は、長年多くの学生と共に取り組んだテーマであり、昆虫学で高い評価を得ている。しかし、それらの知見は青森在住であれば大変身近な話題にも関わらず一般にはほとんど知られていない。今後、安藤名誉教授にはそれらの知見についても書籍としてまとめることが期待されている。

知見例1、コバネイナゴは名前の通り翅が短くて飛べないと一般には考えられているが、安藤名誉教授は学生とともに、大学の屋上に登って、飛翔する本種を何年にも渡りサンプリングしている。つまり本種は上空高くまで飛んでいるのだ！

知見例2、冬季の青森は雪に覆われ寒さが厳しい。そのためコバネイナゴは卵の状態で休眠して冬の寒さをしのいでいると考えられてきた。しかし詳細に研究すると、本種は真冬の寒い期間に休眠していないことが判明した！イナゴが大繁栄している一因は、特殊な越冬の仕組みに起因しているのかもしれない。



HIROSAKI  
UNIVERSITY

プレス発表資料  
PRESS RELEASE

### 書籍情報

「SCIENCE WATCH カマキリに学ぶ」安藤喜一（弘前大学名誉教授）

ISBN: 978-4-8326-0784-2

A5 判・並製・214 頁・北隆館

定価：3,100 円（本体 2,818 円＋税）

発売日：2021.08.20

【情報解禁日時】 なし

#### 【取材に関する問合せ先】

（ 所 属 ）	農学生命科学部
（役職・氏名）	助教・管原 亮平
（電話・FAX）	0172-39-3819
（ E - m a i l ）	rsugahara@hirosaki-u.ac.jp

（配信先）弘前記者会